

重要無形文化財結城紬伝承事業のための 絣設計図案作成

支援先

本場結城紬技術保持会

【背景】

茨城県結城市と栃木県小山市を中心として生産されている結城紬は、代々技術が受け継がれている伝統的な絹織物です。その生産工程の一部である「糸つむぎ」「絣くくり」「地機織り」の3工程の技術は昭和31年に国の重要無形文化財に指定され、また平成22年にはユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

本場結城紬技術保持会ではその貴重な結城紬の生産技術の維持継承を目的として、「伝承者養成事業」に取り組んでいます。この事業では「糸つむぎ」「絣くくり」「地機織り」の3工程の研修を行っており、当センターには「絣くくり」工程で使用する絣設計図案の作成を依頼されました。

【支援内容】

当センターで研究開発した「絣設計図案作成システム」の技術(図1)を用いて、本場結城紬技術保持会から提供されたモチーフ案を元に、亀甲柄の分量、配置、絣柄の連結リピートなど絣製織研修者及び絣括り手の経験や技量を考慮した絣設計図案4点を作成し、支援先へ提供しました。

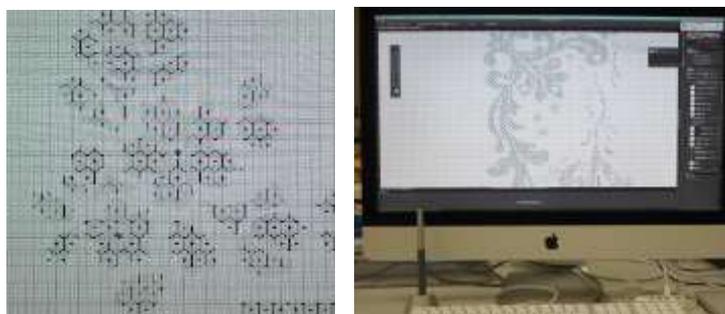


図1 絣図案設計システムによるデータ作成

【活動の成果】

現在、本場結城紬技術保持会では、作成した絣設計図案(図2)を利用し、技術者育成に取り組んでいます。なお、この事業によって織られた反物は、本場結城紬技術保持会の事業成果報告や産地内催事で展示される予定となっています。



図2 左：絣設計図案例 中央：図案を用いた製織研修 右：昨年度の成果の展示

基礎となった事業

令和2年度 オンリーワン技術開発支援事業(共同研究)

現在の担当グループ

繊維・紬G

グループ長

篠塚 雅子

TEL:0296-33-4154

主任研究員

中野 睦子